

序 章

1 研究の現状と課題

平泉町内における初めての発掘調査は、平泉中学校建設に伴い一九五〇年に行われた花館遺址（現在の花立Ⅰ遺跡）でのことであつた〔岩手縣教委一九五一〕。この調査では、翼廊付寺院と推定される巨大な礎石建物跡が検出され、多数の瓦が出土している。この結果により礎石建物部分は校庭として保護され、校舎は礎石建物跡の北側の場所に建築されることとなつた。

文献史学の研究は、発掘調査よりもはるかに古く、江戸時代初期まで遡る。現存する最も古い近世初期の平泉の古絵図は、江戸時代に入り隆盛する源義経物語とともに、平泉研究が行われるようになったことを示している〔平泉郷土館一九八八〕。その流れを受け、江戸中期には、相原友直による『平泉実記』『平泉旧蹟志』『平泉雜記』の平泉三部作が書き上げられている〔平泉町一九九三〕。その後、昭和後期から平成にかけて、文献史学を中心とした多くの論考が発表されるが、考古学による論考は、戦後まで待たねばならなかつたのである。

戦後になると平泉の考古学的研究は、先の花館遺址の発掘調査を皮切りに、一九五二年の文化財保護委員会（現在の文化庁）による無量光院跡〔文化財保護委員会一九五四〕、以後は一九五四年に藤島亥治郎を中心に岩手県教育委員会と



第1図 平泉町位置図

平泉町教育委員会によって結成された平泉遺跡調査会による観自在王院跡と毛越寺境内「藤島一九六一」、柳之御所遺跡と続いていく。平泉遺跡調査会による発掘調査は、多くの成果を挙げたものの、構成員の本務が多忙になるにつれて、活動は鈍っていき、やがて平泉町が文化財の専門職を採用した一九八二年にその役割を終えた。

発掘調査へ移行したことにより、このころより見られなくなる。その後の一九八八年、柳之御所遺跡の大規模発掘調査が開始されると、文献史学の研究は考古学研究に反比例するように活発化するようになった。

このような文献史学がリードする研究状況は、現在まで続いている。志羅山遺跡は一〇〇次以上、柳之御所遺跡は八〇次ほどの発掘調査が行われているにもかかわらず、文献史学に比べて考古学の論考はそれほど多くはなく、短編論考が散見される程度である。これらの成果がまとめられていないということは、平泉研究にとって大きなマイナスであろう。近年、羽柴直人による平泉に関連する考古学の論考「羽柴二〇一二」が発表されたものの、主眼は東日本全体の武家政権の成立と展開、そして平泉の勢力圏の位置付けであった。

平泉研究の大きな問題点は、前述のとおり先行している文献史学に対して、考古学からのアプローチが少ないこと、また文献史学を援用しすぎた考古学研究が多いことである。記録が多く残っている京都や鎌倉では、平泉以上に文献史学に傾倒した考古学研究が蔓延しており、また遺構の重複が著しく、さらに大量な出土遺物により、考古学の原点である遺構・遺物の詳細な観察や検討に立ち戻ることがすでに不可能な状況にある。対して平泉は、遺跡の存続期間が短く、遺構もそれほど重複していないことから、観察や検討はそれほど難しくない。つまり第一に行わなければな

らないのは、どのような遺物が、どれほど出土しているかを明らかにすることである。

課題としては、昭和に行われた寺社の調査成果の再整理が挙げられる。平泉における本格的な発掘調査は、先にも述べたように平泉遺跡調査会によって行われたが、建築遺構を明確にすることを主眼にした調査であったため、遺物等に関しては詳細な検討がなされていないし、さらに昭和という時代背景もあつて、考古学の技術も発展途上の状況であつた。現在は、特別史跡に指定されていることや観光客の多さから寺社を調査することすらできない。すなわち、かつての発掘成果の再整理は、必要不可欠といえる。

2 本書の目的

第1部では、出土遺物の様相を把握する。どのような遺物が、どれほどの数量出土しているのかを明確にする。次には、その成果を用い、各遺跡の年代観、さらには平泉全体の年代観を明らかにしたい。またその過程で、平泉遺跡群における各遺跡の役割が見えてくるはずである。

第1部第1・2章では、広域流通する輸入陶磁器と国産陶器を扱う。愛知県産陶器の研究は一九八〇年代以降、深化しており、中世前期の輸入陶磁器は森田勉が中心となり、器種分類や編年研究を進めていった〔森田一九九五〕。その研究は山本信夫に引き継がれ、大宰府編年として確立している〔山本一九八八〕。

常滑焼に関して総括的にまとめた研究の出現は、赤羽一郎の成果を待たねばならない〔赤羽一九八四〕。この赤羽の研究は、後に修正が加えられ、赤羽中野編年として知られるようになる〔赤羽・中野一九九五〕。

第1・2章では、輸入陶磁器や国産陶器の器種構成や分布傾向を明確にすることで、平泉の年代、平泉内の各遺跡の年代、さらに列島における平泉の位置付けなどを明らかにし、また平泉内で生産された陶器（花立窯跡）を取り